

JA全農 とくしま情報

地域の話や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2025
7月号
No.789



吉野川市農林業まつりで出店した園芸部のブース

マンスリーレポート ————— 2

- ・第20回食育推進全国大会inTOKUSHIMAで徳島すだちをPR
- ・令和7年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会
- ・令和7年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会
- ・令和7年度農産物検査員育成研修会開講
- ・阿波市で「阿波山田錦」田植え交流会
- ・第2回吉野川市農林業まつり
- ・県下JAで農業機械展示会開催

家族が笑顔で元気になる料理 ————— 7

- ・みそピーマンで変身Cooking

トピックス ————— 8

- ・営農コラム

交通安全のお知らせ ————— 8

- ・令和7年度交通マナーアップ推進県民運動

マンスリーレポート

～「サステナブルな食」「食を通じた健康づくり」「世界も視野に入れた徳島の食の魅力発信」～

第20回食育推進全国大会inTOKUSHIMAで徳島すだちをPR

6月7日、8日の2日間、当県本部は、アスティとくしまで開催された「第20回食育推進全国大会in TOKUSHIMA」(主催=農林水産省、徳島県)でブース出店し、県産飲料(ザすだち・徳島すだち微炭酸)とすだちグミの販売および徳島すだちのPRを行いました。

当大会は、食育推進運動を重点的かつ効果的に実施する6月の「食育月間」における全国規模の中核的な行事で、2006年の第1回大会以降、農林水産省が地方自治体と連携し毎年開催しています。

今回は本県開催ということで、食の力は無限大∞～徳島から未来へつなぐ食育～をコンセプトに、徳島県ならではの「食」や「食文化」の魅力を発信するため、ステージや県内外の団体・企業160余りのブースで多彩な催しを繰り広げました。

7日はメインステージで開会式が行われた後、食育活動表彰や阿波踊り、日英伊韓の6名のパネリストによる食育国際会議などが催され、開場直後から大勢の来場者で賑わっていました。また、同日午後には東京海洋大客員教授でタレントの「さかなクン」のトークショーがあり、観客からリクエストを受け模造紙に魚のイラストを即興で描きながら魚の生態や魅力を紹介しました。子どもたちは「さかなクンに会うことができ夢のようだ」と喜んでいました。

当県本部ブースでは、両日徳島すだち大使(英咲良さん・花谷愛子さん)が来場者に、徳島すだちの魅力を発信しました。海外の観光客も多く詰めかけ、展示していた徳島すだちのパネルやパンフレットを興味深く見たり、「すだち飲料やグミはどんな味？」と質問しながら、お土産をたくさん購入していました。

大会は2日間で約24,000人の来場があり、盛況のうちに幕を閉じました。



後藤田正純徳島県知事による開会のあいさつ



会場の様子



当県本部ブース(7日)



当県本部ブース(8日)

～徳島県産蓮根のイメージアップと消費拡大へ～

令和7年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会

6月20日、徳島県蓮根消費拡大協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、徳島県JA会館会議室で、県内JA、徳島県、県内市町村、卸売市場、当県本部より関係者27名出席のもと「令和7年度徳島県蓮根消費拡大協議会総会」を開催しました。

同協議会は、徳島県産蓮根の消費拡大を促進し、蓮根生産農家の経営安定と発展を図る活動に取り組んでいます。

総会では、▽令和6年度事業報告および収支決算 ▽令和7年度事業計画(案)および収支予算(案)▽役員改選(案)が審議され、満場一致で承認されました。

なお、令和7年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- 業務関係でのれんこんフェアの実施
- 関西圏の商業施設レストランでのフェア実施
- 大阪・関西万博関連での食材提供
- 新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどマスメディアや交通広告を通じたPR
- 宣伝用販促資材の作成



坂本雅彦会長による開会のあいさつ



総会の様子

～徳島県産甘藷の認知度向上と消費拡大を図る～

令和7年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会

6月24日、徳島県甘藷消費拡大協議会(会長＝村上哲副本部長)は、徳島県JA会館会議室で、県内JA、徳島県、卸売市場、当県本部より関係者22名出席のもと「令和7年度徳島県甘藷消費拡大協議会総会」を開催しました。

同協議会は、徳島県産甘藷の消費拡大を促進し、甘藷生産農家の経営安定と発展を図る活動に取り組んでいます。

総会では、▽令和6年度事業報告および収支決算▽令和7年度事業計画(案)および収支予算(案)が審議され、満場一致で承認されました。なお、令和7年度事業計画の主な取り組みは以下のとおりです。

- 徳島県産青果物とのタイアップ(徳島県産フェアの実施、メニュー開発)
- 県内外での小学生等を対象とした食育活動の実施
- SNS(Instagram、Youtube等)を利用した消費宣伝
- 食品メーカーとタイアップした消費宣伝活動
- 栄養教諭・学校栄養職員向け調理講習会
- 首都圏及び関西圏の商業施設レストランでのフェア実施



村上哲会会長による開会のあいさつ



総会の様子

マンスリーレポート

～信頼される農産物検査員の養成へ～

令和7年度 農産物検査員育成研修会開講

6月16日、徳島県JA農産物検査協議会（会長＝JA東とくしま・高井紀明参事）と当県本部は、徳島県JA会館会議室で「令和7年度農産物検査員育成研修会（基礎課程）」を開講しました。

当研修会は農産物検査員の確保・養成を継続し、県産米のブランド化を確立していくことを目的として毎年開催しており、本年度は、県内3JAの職員15名が、同会議室で6月16日から7月15日までの間で計10回受講します。

開講式では、当県本部米穀畜産部の西川伸哉部長が「農家組合員や消費者から信頼される検査員になれるよう研修に臨んでいただきたい」とあいさつを行いました。

研修会では、一般財団法人日本穀物検定協会の杉山功講師、植田幸雄講師から農産物検査員の職務や心得についての講義を受け、農産物分析や鑑定実習などの基礎課程講習に取り組み、農産物検査員としての知識や技能、検査方法などを学びます。



あいさつをする一般財団法人日本穀物検定協会の杉山功講師



開講式の様子



鑑定実習に取り組む受講者

～安全・安心な酒米づくりを实践～

阿波市で「阿波山田錦」田植え交流会

6月14日、JA徳島県あわ市営農経済センター管内の圃場で、酒造好適米「阿波山田錦（あわやまだにしき）」の田植え交流会が開催され、全国の日本酒ファンや酒蔵、JA・当県本部職員など43名が参加しました。（主催＝阿波山田錦をもっと飲まん会実行委員会）

約4アールの圃場で、参加者はJA職員から指導を受けながら、梅雨空のじめじめと蒸し暑いなか、汗を拭い一株一株丁寧に苗を手植えしました。初めて田植えを体験された方は「明日はきっと筋肉痛ですね」と笑顔で話してくれました。

田植え終了後、徳島市内に場所を移し、阿波山田錦で造られたお酒を堪能する「阿波山田錦をもっと飲まん会」を開催し、産地・酒蔵・消費者の交流を活発に行いました。

JA徳島県（旧JAあわ市）では、平成7年（1995年）から品質を重視した阿波山田錦の本格的な栽培に取り組んでいます。酒蔵と生産者、JAがお互いの顔が見える信頼関係の中、安全・安心な酒米づくりを实践しています。



阿波山田錦の田植えを行う参加者



阿波山田錦で造られた日本酒

～徳島県産農産物や飲料の魅力や食育活動を発信～

第2回吉野川市農林業まつり

6月15日、当県本部は、吉野川市役所のイベント広場で開催された「第2回吉野川市農林業まつり」(主催＝吉野川市・JA徳島県吉野川営農経済センター・徳島北部森林組合)にブース出店しました。ブースでは徳島県産飲料(ザすだち、徳島すだち微炭酸)の販売やスイートコーンを使用したデコ巻きずし体験を実施し、県産農産物や飲料、当県本部の食育活動をPRしました。

このイベントは、吉野川市が農林業の振興を図ることを目的として、各種関係団体と連携し実施されたもので、昨年に続き第2回の開催となります。

ステージ上では、吉野川市・原井敬市長やJA徳島県・前田洋治常務理事による開会のあいさつが行われた後、鴨島鳳翔太鼓のパフォーマンスや丸太切り体験などで大変盛り上がりました。他にもスイートコーン収穫体験や木工教室、VR伐採体験など、親子で楽しめる催しが多く、たくさんの来場者で賑わいました。



あいさつをするJA徳島県・前田洋司常務理事



吉野川市・原井敬市長による開会のあいさつ



暑かったのですだち飲料も大人気!

親子でデコ巻きずし作り「上手にできました!」



マンスリーレポート

～農作業を応援、最新技術を見て・触って・感じる～

県下JAで農業機械展示会開催

6月、県下JAでは農業機械の展示会が開催されました。

展示会場には、トラクター、コンバインなどの大型農機や小型機械などが展示され、来場された生産者は実際に農機に触れたり、JA担当者や全農本所徳島農機事務所職員に熱心に質問し、機能や特徴を確かめていました。

また、敷地内の圃場では各種農機の試乗体験も実施したり、来場者への記念品プレゼントもあり、期間中多くの生産者が次々に訪れていました。



**JA徳島市農機展示会・
北部営農経済センター物流フェア**
開催日:6/6-7
場 所:北部営農経済センター



JA東とくしま農機フェア
開催日:6/6-7
場 所:小松島農機SC



JA徳島県阿南農機フェア
開催日:6/13-14
場 所:阿南農機SC



**JA徳島県藍住・鳴門・
名西郡農機SC合同展示会**
開催日:6/13-14
場 所:藍住農機SC



JA徳島県あわ市農機フェア
開催日:6/19-20
場 所:あわ市農機SC



家族が笑顔で
元気になる料理



旬野菜×発酵調味料

野菜ソムリエ・麺料理研究家の
武岡泰子先生が徳島県の美味しい
野菜レシピを紹介します!



みそピーマンで変身Cooking

夏バテ
知らずの

みそピーマン

材料(2人分)

- A**
- 豚ひき肉.....50g
 - 塩麹.....小さじ2
 - おろしにんにく.....小さじ½
 - おろし生姜.....小さじ½
 - 輪切り唐辛子.....小さじ¼
 - ピーマン.....100g
- B**
- かつおぶし.....1g
 - みそ.....小さじ1
 - 酒.....小さじ1
 - ゴマ油.....小さじ1

作り方

- ① フライパンに**A**を上から順に入れ、その都度混ぜる。
- ② フタをして加熱(中弱火5分)
- ③ 肉に火が通ったら、フタを外し **B**を混ぜ、さらに炒める。(4-5分)
- ④ 水分がほぼなくなればでき上がりよ



ピーマンの種・ワタ「ワタシ」...血液サラサラ栄養満点
糸状の刻みはとたばやす!!

ご飯のお供で「パワーチャージ」!!



変身その1

春巻きならぬ **夏巻き**

材料(2人分)

- 具**
- みそピーマン.....70g
 - インゲン.....4本
 - 春巻きの皮.....2枚
- のり**
- 小麦粉.....小さじ1
 - 水.....小さじ1
 - 米油.....適宜

作り方

- ① 春巻きの皮に具を並べ、包む。具は半分より手前に並べる。巻き終わりは、のりで止める。
- ② フライパンで色よく揚げ焼きにする。油は深さ1cm。巻き終わりを下に並べる。側面も加熱する。

お好みで塩を添えてよ



変身その2

これで一品 **つまみ奴**

材料(2人分)

- みそピーマン.....40g
- 木綿豆腐.....150g
- ゴマ油.....小さじ½

作り方

- ① 水をよく切り (キッチンペーパーで「匂い」やさしくぎゅっと包んで) 10木に切る。
- ② お皿に豆腐を並べ、みそピーマンを盛り、ゴマ油をかける。
- トッピングに:
ラー油、すりゴマ、ナツメ、おススメ



野菜ソムリエ・麺料理研究家 武岡泰子

https://www.instagram.com/yachting_1226/

◎4姉妹の母です。心も体も元気になるごはんを毎月紹介します! ◎資格:野菜ソムリエ、薬膳マイスター、食育インストラクター、フィットネスクラブアドバイザー(ハーブや精油で不調を整える予防医学) ◎活動歴:すだち料理研究家、すだちSUMリエ(自称)として、ヴォルティスのドレッシングレシピ考案や県のイベントですだち果汁のPR/麺料理研究家/料理教室「和Meshiのスズメ」主宰/講師 高校でのエシカルクッキング/カルチャースクール エミール講師/NHK「ギュッと!四国」、テレビ朝日「食彩の王国」出演

国は有機農業の取り組みを進めるため、緑肥の活用を推進しています。徳島県ではニンジンとソルゴー（緑肥）の作付け体系がすでに導入されていますが、近年、肥料価格の上昇や野菜畑の連作障害対策として、緑肥が見直されています。

緑肥とは主作物（野菜など）の成長を促進するために、田畑で育てる植物のことです。すき込めば土壌に有機物を供給することができ、土壌改良や主作物への養分供給、緑肥の種類によっては土壌病害の抑制などの効果があります。主作物への効果やすき込み適期は緑肥により異なるため、導入の目的に合った緑肥の選定が必要です。

野菜栽培におけるソルゴー（緑肥）の利用方法は、野菜栽培終了後、ソルゴーを播種し、穂が出始める頃にすき込みます。1ヶ月以上腐熟させた後、畑の土壌分析を実施し、次に栽培する野菜に合わせた施肥を行います。

では、具体的に緑肥（ソルゴー）はどのような効果があるのでしょうか。

「土づくりに役立つ効果」としては、①緑肥をすき込むと作土に有機物が増え、作土が柔らかくなり、保水性や

透水性が良好になるなど土壌物理性が改良されます。②緑肥の根が深くまで伸び、硬盤層を柔らかくします。雨が降っても、隙間を通して余分な水が流れるため、排水性が良くなります。

「減肥に役立つ効果」としては、①前作終了後の土壌中に残った肥料を吸収します。②土壌中に残った肥料が雨で流れるのを防ぎます。③作土の下層に流れた肥料を溶脱する前に緑肥が吸い上げ、緑肥をすき込むことで上層に戻すことができます。④難溶性や有機態のリン酸や窒素、加里などの肥料を吸収し、すき込むことで後作物が利用できます。すなわち後作物の肥料を減らすことができます。⑤肥料が畑に保持されやすくなり、肥料の利用率が高まります。

「その他の効果」としては、①生育が早い緑肥を栽培し、茎葉で地面を覆うと、雑草の発芽や生育を抑制できます。②緑肥の種類によっては、土壌病害やセンチュウを抑制できます。

緑肥を活用し、野菜栽培のための土づくり、適正施肥、生産安定につなげていきましょう。



交通安全のお知らせ

令和7年度交通マナーアップ推進県民運動

県民一人ひとりが、人に優しい交通安全思想を基本として、「ゆずる心」と「待つゆとり」を持って、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に努め、実践することにより交通事故の防止とストレスのない交通社会を目指すことを目的とした県民運動が開催されます。

1 期間

令和7年7月1日(火)から7月31日(木)まで
◎県下一斉シートベルト着用キャンペーン等の実施
7月18日(金)

2 運動の重点

ドライバーをはじめとした県民の交通ルール遵守と交通マナー向上
～交通事故防止とストレスのない交通社会に向けたマナーアップの推進～

3 推進項目

○横断歩行者保護等交通マナーの向上

ドライバーは、人に対する優しさを意識した安全運転の徹底を常に心がけ、歩行者や他の車両の安全に配慮しましょう。横断歩行者等がいれば確実に一時停止するなど歩行者等の保護を実践した運転を行いましょう。

歩行者は、夕暮れ時(夜間)に外出する時は、反射材用品やライトを活用し、自分の存在を周囲に知らせてください。

○全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

車に乗る際は、シートベルトを正しく着用するとともに、同乗者にも確実にシートベルト等を着用させましょう。シートベルトは命を守ってくれる命綱です!

○自転車安全利用の促進

～自転車用ヘルメットの着用促進～

自転車は「車両」です。信号無視や携帯電話の使用、傘差し運転等の交通違反は絶対やめましょう。自転車に乗る際は必ずヘルメットを着用してください。また、運転前の定期的な点検整備と自転車保険等の加入に努めましょう。

交通マナーアップ宣言

わたしたちは

- 1 歩行者の保護に努めます。
- 2 全席でシートベルトを必ず締めます。
- 3 自転車乗車時はヘルメットを着用します。



徳島県警察本部 交通企画課

令和7年度 全農徳島県本部OB会総会

6月26日、全農徳島県本部OB会は徳島市内のホテルで「令和7年度全農徳島県本部OB会総会」を開催し、会員など29名が出席しました。

総会では、大西公宏OB会会長のあいさつの後、慶弔基準により満80才を迎えた渡辺増之氏に記念品の贈呈を行いました。続いて、①令和6年度事業実績および収支決算②令和7年度事業計画および収支予算(案)③役員改選(案)に

ついての協議が行われ、出席者全員一致で承認されました。なお、新会長には池北好宏氏が選任されました。

総会に引き続き開催された懇親会では、大西会長の音頭で乾杯を行い、1年ぶりの再会に会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。



80歳のお祝いの記念品を贈呈



OB会総会の様子



あいさつをする大西公宏OB会会長



新会長に選ばれた池北好宏氏によるあいさつ

～徳島県産農産物の美味しさを伝える～

シルバー大学会員に向けて デコ巻きずしで食育推進

6月24日、当県本部は上板町の「技の館」で、シルバー大学「さざんかの会」会員を対象に食育講習会を開催しました。

研修会では、当県本部企画管理課広報室の仁木智美職員(デコ巻きずしマイスター)が出席者18名に対し、野菜摂取の大切さや「県産・国産」を守るため生産者の現状を伝え、少しでも多くの県産・国産農畜産物を食べていただくようお願いしました。

続いて行われた地

元食材を使用した調理では、徳島県産米「あきさかり」を使用した小梅とバラのデコ巻きずしを指導しました。参加者は「簡単なので家でも作ってみたい」と喜んでいました。

当県本部では今後も、徳島県産農産物の魅力やおいしさを伝え、食への意識を高め健康増進に繋げる楽しい食育活動の支援を行ってまいります。



みなさん「楽しかった～」と良い笑顔!



デコ巻きずし作りの指導をする仁木職員

～「エコープマーク商品」や「くらしの宅配便」を紹介～

商品見本市で JA女性部員へPR

6月4日と5日の2日間、JA徳島県脇町営農経済センターによる商品見本市が美馬市で開催され、エコープマーク品のメーカーなど各取引先と、JA全農・徳島生活推進課より同JA女性部員に対し、生活事業関連商品の紹介と利用拡大に向けてPRを行いました。

5日は、美馬市脇町の美馬市地域共生交流施設「小星ベース」で開催し、午後の部には女性部員20名が出席しました。各取引先（厚生産業株式会社、大興産業株式会社、築野食品工業株式会社、大島食品工業株式会社、TUK東洋羽毛工業株式会社）担当者から商品説明が行われ、みなさん熱心に耳を傾けていました。続いて、中四国エネルギー生活事業所の塩見日向佳職員と徳島生活推進課の佐藤泰弘職員が、JAが提供する宅配

サービス「JAくらしの宅配便」の紹介や会員登録、注文の仕方などの説明を行いました。

その後、部員のみなさんは、それぞれの展示ブースで商品を確認しながら、ゼリーの素や漬物の素、ほめられ酢やこめ油などを使った試食や試飲をおこない、風味や食味を確かめていました。

なお4日は、つるぎ町農業構造改善センターで、午前と午後の2回商品見本市を開き、2日間で女性部員70名が出席しました。

徳島生活推進課では、今後もこうした活動により、取扱い商品の認知度を高めるとともに商品の普及・利用拡大に努めてまいります。



くらしの宅配便を説明する佐藤泰弘職員



試食をしながら調理法を質問する女性部員



JAタウン「新鮮大好き徳島」今月のおすすめ



すだちくんアイス 8個セット(クール冷凍)

今年も暑い夏がやってきました!

当サイトでは、徳島すだちを使用したアイス「すだちくんアイス」を販売しています。徳島すだちの酸味をヨーグルトのまるやかさで抑えながらも風味は残し、さっぱりと食べやすい味に仕上げました。

徳島県のマスコットキャラクター「すだちくん」のカップに入っており、食べ終わった後のカップは、貯金箱にすることができます。

全国送料込み・消費税込みの価格でご提供しています。贈り物にもぜひご利用ください!



おいしい日本と暮らそう

JAタウン「新鮮大好き徳島」

<https://www.ja-town.com/shop/c/c7001/>

新鮮大好き徳島

検索



～徳島県産トウモロコシと枝豆を紹介～

四国放送ラジオ 「となりのラジオ」でPR

6月13日、四国放送ラジオ「となりのラジオ」(毎週月曜～金曜 午後1時20分から放送)に生産者やJA職員、当県本部園芸部職員が出演し、徳島県の美味しいトウモロコシと枝豆を紹介しました。

四国放送の木戸弥生リポーターがラジオカーで「ひまわり農産市鴨島店」を訪れ、同店の大島和雄店長や当県本部園芸販売課・柿沼秀爾職員に県産トウモロコシについてインタビューをしました。大島店長はサニーショコラライラの紹介や今年の生育状況を、柿沼職員は美味しい食べ方を紹介し、リスナーに県産トウモロコシをPRしました。

続いてラジオカーはJA徳島市予冷センターに場所を移し、同JA枝豆統一部会・前川久部会長と佐藤徹也職員、当県本部園芸販売課の松田崇職員がJA徳島市独自ブランドの「あわっちゃ豆」についてインタビューを受け、風味や保存方法などをリスナーにわかりやすく説明しました。

また、スタジオではJA徳島市・佐藤宏樹課長代理やJA徳島県・仁木宏則課長、当県本部園芸販売課・飯田旺輝職員が徳島県内それぞれの産地のトウモロコシと枝豆の特徴や栄養素について説明したり、「トウモロコシと枝豆あれこれ」のテーマでリスナーから寄せられた質問(選び方や保存方法、レシピなど)に対し丁寧に答えました。

当県本部は、旬の農産物を消費者に美味しく食べていただくため、様々な媒体で情報を発信していきます。



四国放送ラジオ スタジオの様子

JA徳島市ひまわり
農産市鴨島店で
スイートコーンのPR



JA徳島市予冷センターで枝豆のPR



4本柱で支える包装資材の総合メーカー



クラフト紙袋



ポリエチレン袋



フレキシブルコンテナバッグ



クロスGRAM

SSK 佐藤産業株式会社





阿波ふうど
AWA FOOD

徳島の ななし

シャリツと
ジュワツと
たまごころです



幸水は酸味が少なく甘みが強く、
果肉はやや柔らかめの歯触りしい
果実で、特有の風味があります。



豊水は通常より果肉に多汁です。
ほどよく酸味があるのも特徴。
幸水に比べると甘味があります。

幸水は7月中旬から8月中旬、
豊水は8月中旬から9月中旬まで出荷しています。

JA全農とくしま



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

